

米雇用堅調も今後は信用収縮の影響に要警戒



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 堅調な米雇用統計受け米金利が上昇

米労働省が7日に発表した3月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比23.6万人増（市場予想同23.0万人増）、失業率が3.5%（同3.6%）となり、米労働市場の堅調さを示す内容でした。半面、平均時給は前年同月比4.2%増と市場予想（同4.3%増）を下回り、21年6月以来の水準にまで伸びが鈍化しました。今回の米雇用統計を受け、同日の米債券市場は金利上昇で反応するなど、FRB（米連邦準備制度理事会）による5月の利上げの織り込みが進んだ格好です。

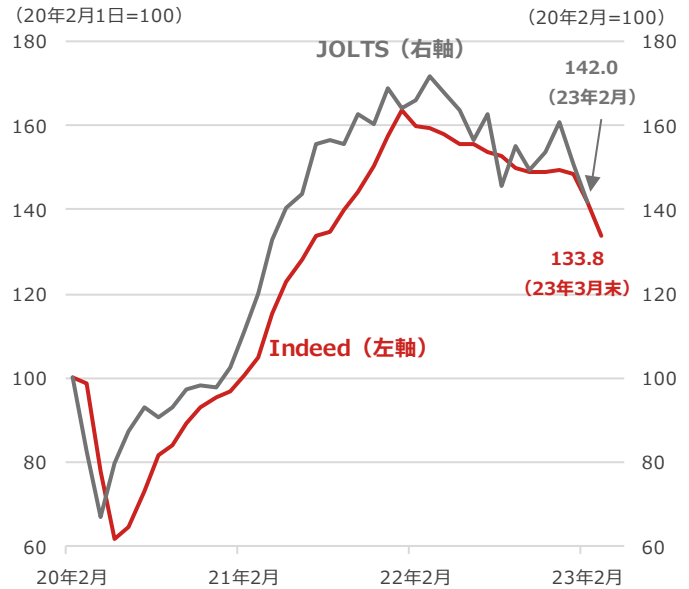
もっとも、今後は米金融システムを巡る混乱が米雇用にも悪影響を及ぼす可能性がある点には留意が必要です。求人検索サイトを運営するIndeedの米労働市場に関するデータをみると、3月末にかけて求人件数が大きく減少しており、今後米国で雇用環境が急速に悪化することが懸念されます（右上図）。

ポイント② 信用収縮の米経済への影響に注視

FRBが7日に公表したデータによると、米商業銀行の融資が2週連続で大幅に減少するなど、米国では信用収縮が顕在化しつつあり、今後の米経済の重荷となる可能性があります（右下図）。

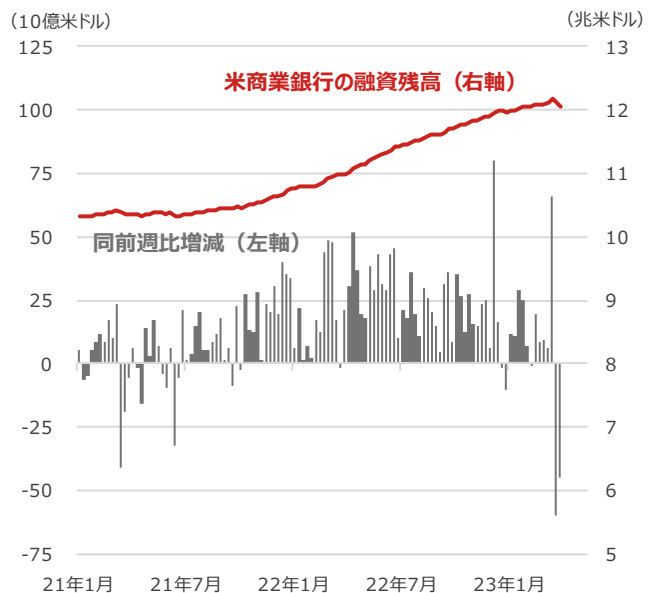
直近2週間の融資減少額は1,047億米ドルと、2週間としては統計開始以来最大の落ち込みとなっており、3月に顕在化した米金融システムの混乱によって、米商業銀行が貸出姿勢を厳格化していることが確認できます。今後もこうした信用収縮の動きが続けば、米雇用環境の悪化や企業活動の縮小を通じて、米経済が急失速することも想定され、こうした点を考えると、米利上げ停止のタイミングは近づきつつあるといえます。

IndeedとJOLTS（米雇用動態調査）の米求人件数



期間：(Indeed) 2020年2月1日～2023年3月31日、月次
(JOLTS) 2020年2月～2023年2月、月次
(出所) Indeed、Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米商業銀行の融資残高と同前週比増減



期間：2021年1月6日～2023年3月29日、週次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。